

宮城県商工地区中小企業景況調査報告書

2023年4月～6月期

目次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2023年8月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2023年4月～6月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、利府松島商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 147企業

2. 調査対象期間

2023年4月～6月期を対象として、調査時点は2023年6月1日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	33
建 設 業	24
小 売 業	40
サービス業	50
合 計	147

5. そ の 他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2023年4月～6月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況D I（前年同期との比較D I、以下同じ）は、前期より1.8ポイント改善し△27.9（前期△29.7）となった。産業別では、製造業が△42.4（前期△18.1）で△24.3ポイントの悪化、建設業は△25.0（前期△20.0）で△5.0ポイントの悪化となる一方、小売業は△42.5（前期△50.0）で7.5ポイント改善、サービス業でも△8.0（前期△25.0）と17.0ポイントの改善となった。

来期見通しでは、製造業で悪化、建設業は横ばい、サービス業、小売業では改善の見通しである。

表-1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 29.7	△ 27.9	△ 26.5
製造業	△ 18.1	△ 42.4	△ 45.4
建設業	△ 20.0	△ 25.0	△ 25.0
小売業	△ 50.0	△ 42.5	△ 40.0
サービス業	△ 25.0	△ 8.0	△ 4.0

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業が9.1%で前期比横ばい、建設業は12.5%で前期比4.5ポイント増加、小売業は12.5%で前期比0.6ポイント増加、サービス業でも12.0%と前期比7.8ポイントの増加であった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べ小売業を除いた産業で増加する見通しとなっている。

表-2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	9.1	9.1	12.1
建設業	8.0	12.5	16.7
小売業	11.9	12.5	5.0
サービス業	4.2	12.0	20.0

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2023年6月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2023年3月調査）と比較し、「製造業がマイナス5で前期比1ポイント上昇、非製造業はプラス11で前期比3ポイント上昇。供給制約の緩和に伴う自動車産業の増加や資源高一服によるコスト減少、新型コロナの5類移行による外出機会の増加、インバウンド需要の回復が維持していること等から景況感は改善する見込み」と発表された。

宮城の今期売上額(完成工事額)D Iは、前期との比較では製造業で悪化となり、建設業、小売業、サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業で全国・東北以下、建設業で全国以下・東北以上、小売業、サービス業で全国・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 8.7	△ 1.5	△ 16.7	△ 7.5	△ 18.2	△ 21.2
建 設 業	△ 15.5	△ 11.6	△ 34.4	△ 28.1	△ 36.0	△ 26.1
小 売 業	△ 22.8	△ 10.5	△ 35.2	△ 13.8	△ 31.0	△ 7.5
サービス業	△ 2.6	14.5	△ 17.1	11.7	△ 10.4	16.0

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であったものの、前期との比較では、全産業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業、小売業、サービス業では全国・東北以下、建設業で全国・東北以上であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 29.5	△ 20.3	△ 41.7	△ 30.4	△ 37.5	△ 36.4
建 設 業	△ 36.1	△ 25.8	△ 42.5	△ 34.6	△ 32.0	△ 16.6
小 売 業	△ 43.7	△ 32.6	△ 50.0	△ 43.7	△ 57.1	△ 50.0
サービス業	△ 38.2	△ 21.8	△ 46.7	△ 29.7	△ 35.4	△ 32.7

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2023年7月～9月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業が△6.1ポイント、小売業で△5.0ポイント、サービス業で△3.8ポイントの悪化とする一方、建設業で8.7ポイントの改善見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で△6.1ポイント、建設業で△8.4ポイントの悪化となり、小売業で7.5ポイント、サービス業で4.1ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国で横ばい、宮城で悪化、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通し。建設業では売上は全国で悪化、宮城で改善、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通し。小売業では売上が全国・宮城で悪化、採算では全国・宮城で改善の見通し。サービス業では売上が全国・宮城で悪化、採算では全国・宮城で改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 1.5	△ 1.5	△ 21.2	△ 27.3
建設業	△ 11.6	△ 15.8	△ 26.1	△ 17.4
小売業	△ 10.5	△ 10.9	△ 7.5	△ 12.5
サービス業	14.5	13.4	16.0	12.2

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 20.3	△ 16.0	△ 36.4	△ 42.5
建設業	△ 25.8	△ 23.5	△ 16.6	△ 25.0
小売業	△ 32.6	△ 29.0	△ 50.0	△ 42.5
サービス業	△ 21.8	△ 15.4	△ 32.7	△ 28.6

2. 県下産業別の景況

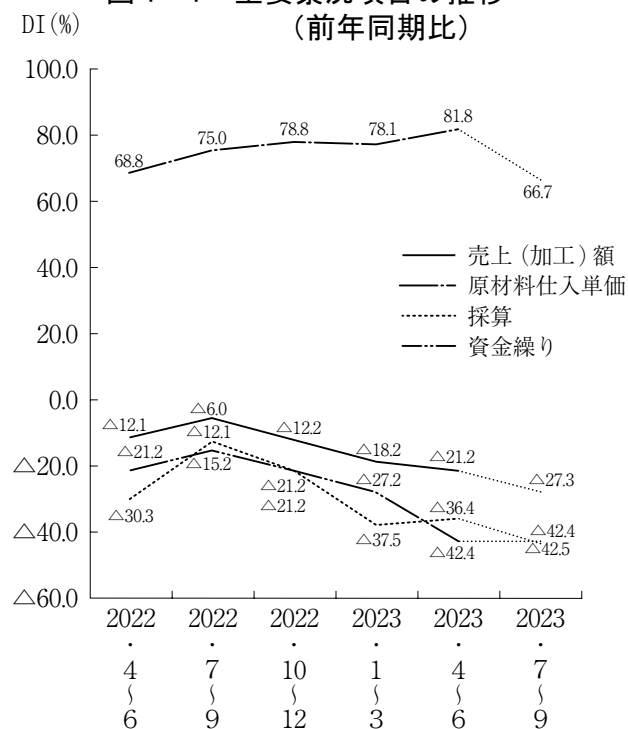
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△21.2（前期△18.2）となり前期比△3.0ポイント悪化、採算D Iでは今期△36.4（前期△37.5）で同1.1ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△42.4（前期△27.2）で同△15.2ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期81.8（前期78.1）と3.7ポイント増加した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



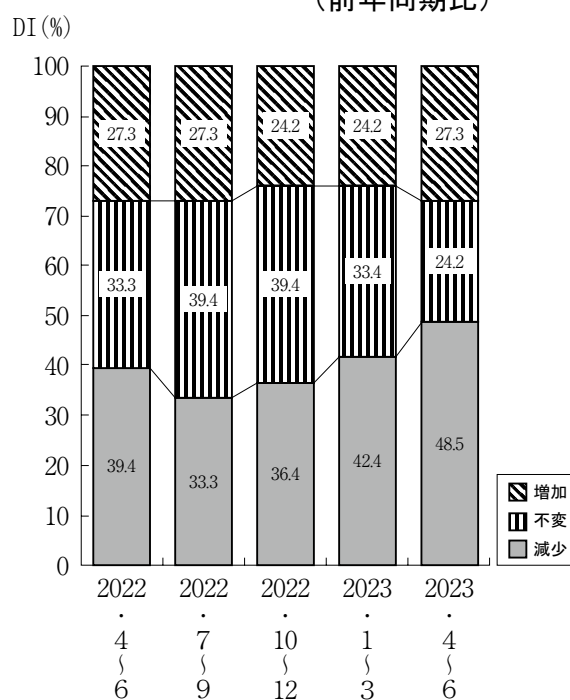
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の27.3%（前期24.2%）で3.1ポイントの増加、「減少」と回答した企業は48.5%（前期42.4%）と6.1ポイント増加した。

その結果、売上（加工）額D Iは△21.2（前期△18.2）となり前期比△3.0ポイントの悪化となった。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

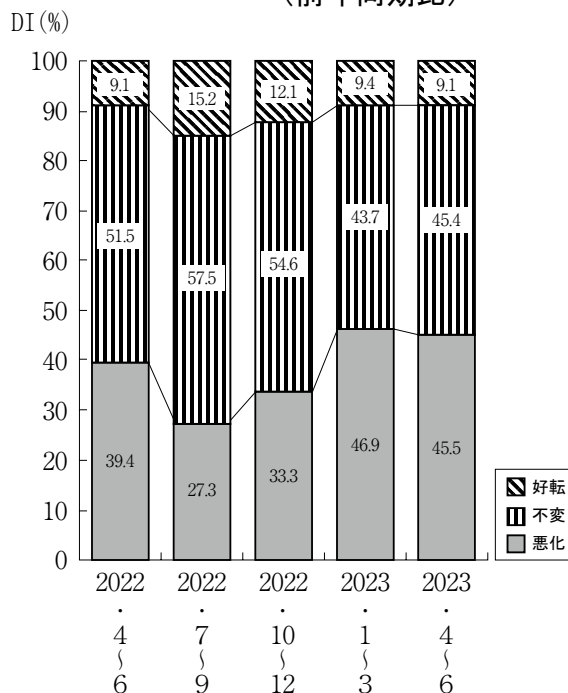


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の9.1%（前期9.4%）で0.3ポイント減少、「悪化」と回答した企業は45.5%（前期46.9%）で1.4ポイント減少。

その結果、採算DIは△36.4（前期△37.5）で1.1ポイントの改善となった。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



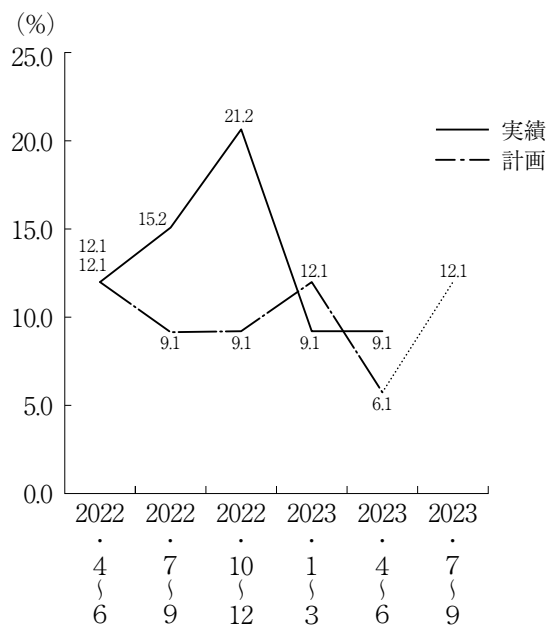
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の9.1%（前期9.1%）で、前期と比べて横ばいであった。

その設備内容は、土地、工場建物、生産設備であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の12.1%で、その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、OA機器となっている。

図1-4 設備投資の状況



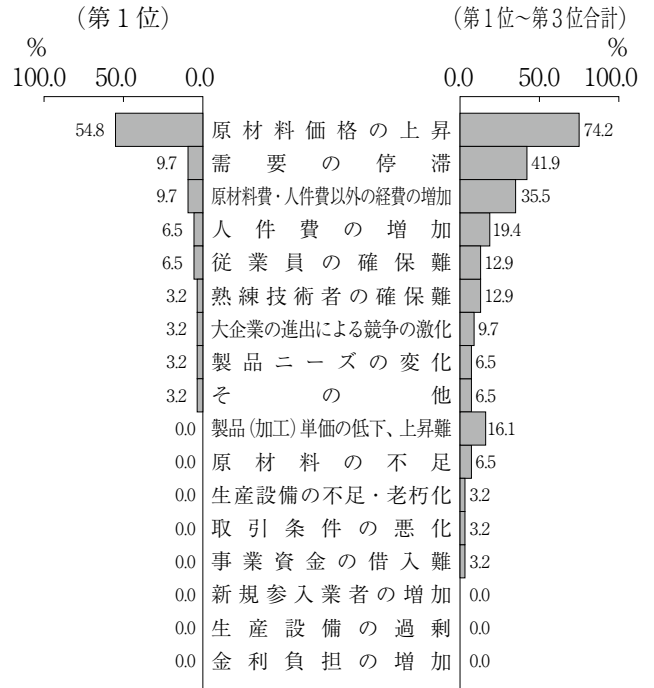
(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」で54.8%、次いで「需要の停滞」

「原材料費・人件費以外の経費の増加」が同率9.7%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「原材料価格の上昇」が74.2%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が41.9%、「原材料費・人件費以外の経費の増加」が35.5%、「人件費の増加」が19.4%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」が16.1%、「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」が同率12.9%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



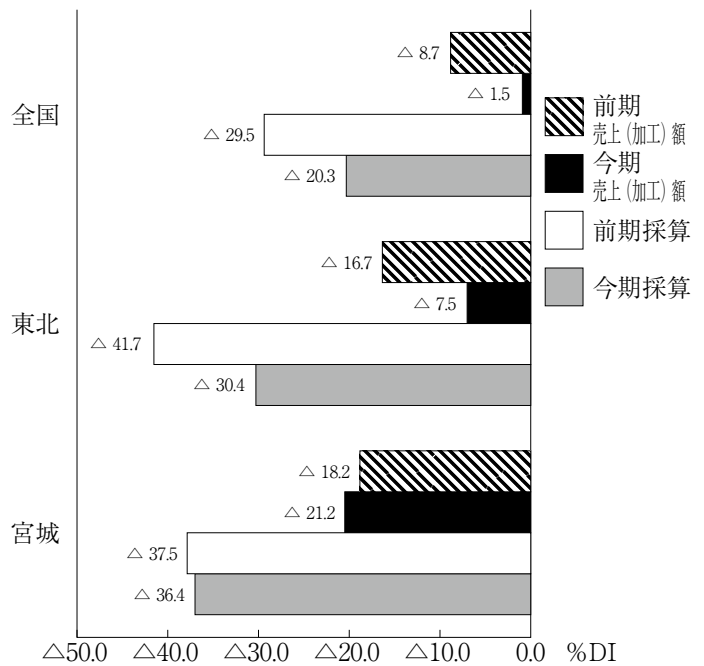
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で、売上（加工）額DIは全国、東北で改善、宮城は悪化であった。

採算DIでは全地域（全区分）で改善。その改善度は東北、全国、宮城の順であった。

本県回答事業者からは「新型コロナが収束状態になり通常に戻りつつある」（酒類）とする一方で、「原材料価格上昇分を単価に上乗せすることが困難」（木製品）、「人手不足や人件費の高騰」（食料品）、「頻発する生産調整に苦慮している」（電子部品）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）

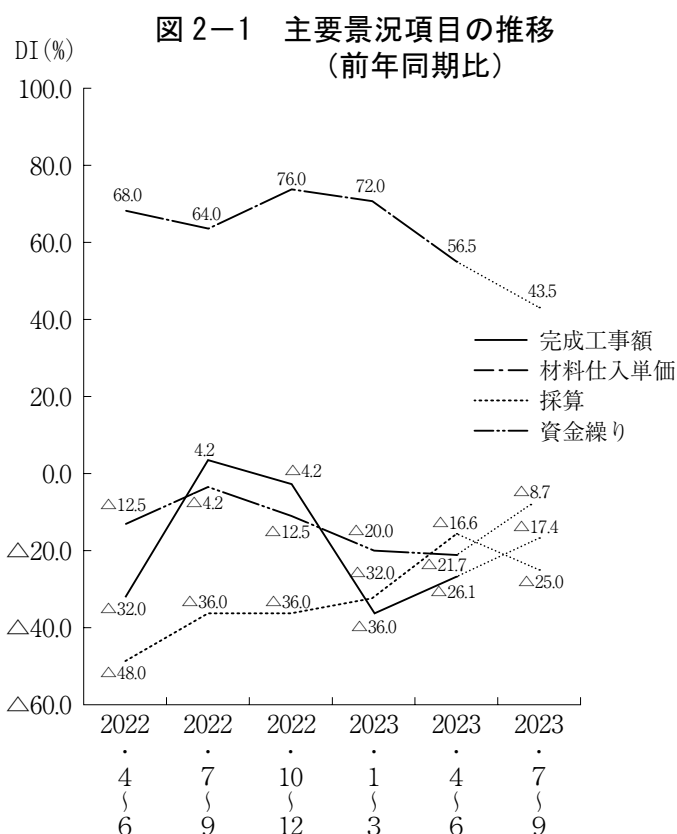


(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△26.1（前期△36.0）となり、前期比9.9ポイントの改善、採算D Iでは今期△16.6（前期△32.0）で15.4ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△21.7（前期△20.0）となり、△1.7ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期56.5（前期72.0）と15.5ポイントの低下となった。



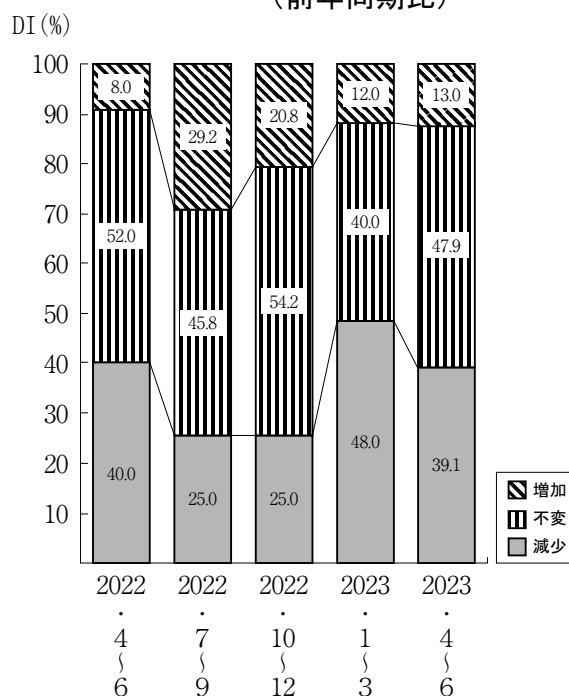
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の13.0%（前期12.0%）で1.0ポイント増加、「減少」と回答した企業は39.1%（前期48.0%）で8.9ポイント減少となった。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△26.1（前期△36.0）となり、前期比9.9ポイントの改善となった。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

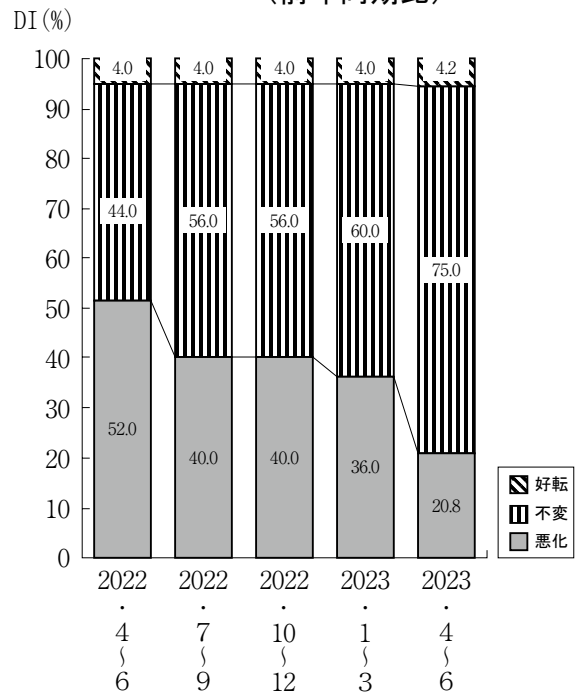


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の4.2% (前期4.0%)で0.2ポイント増加、「悪化」と回答した企業は全体の20.8% (前期36.0%)となり15.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは△16.6 (前期△32.0)となり15.4ポイントの改善となった。

図2-3 採算の状況 (前年同期比)



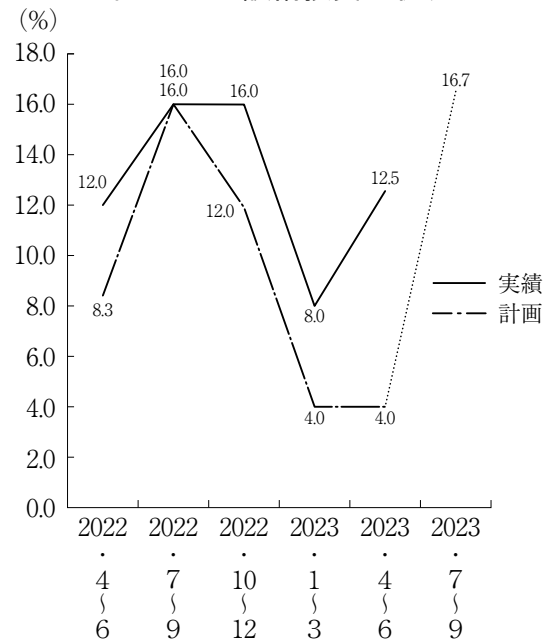
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の12.5% (前期8.0%)で前期と比べ4.5ポイント増加した。

その設備内容は、建設機械、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の16.7%で、その設備内容は、土地、建物、車両・運搬具、OA機器となっている。

図2-4 設備投資の状況



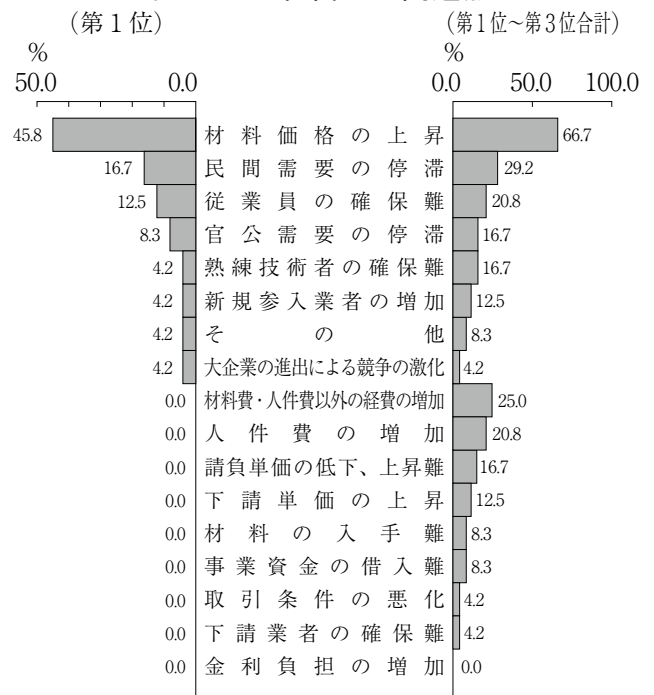
(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」で45.8%、次いで「民間需要の停滞」16.7%、「従業員の確保難」12.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」が66.7%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「民間需要の停滞」が29.2%、「材料費・人件費以外の経費の増加」が25.0%、「従業員の確保難」

「人件費の増加」が同率20.8%、「官公需要の停滞」「熟練技術者の確保難」「請負単価の低下、上昇難」が同率16.7%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



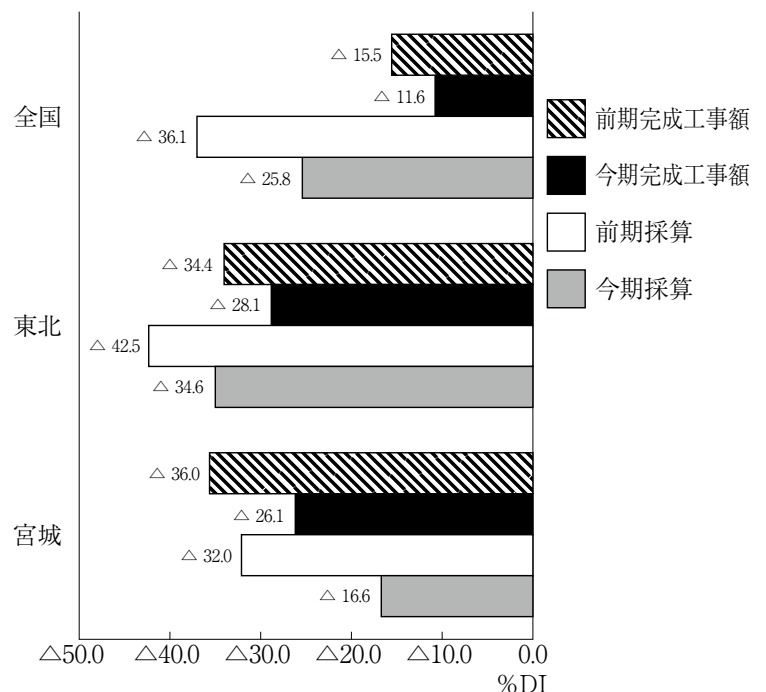
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額DIは全地域（全区分）で改善した。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIの比較でも全地域（全区分）で改善となった。その改善度は宮城、全国、東北の順であった。

本県回答事業所からは「取引先からの引合い件数が少ない」（建築）、「民需の停滞による工事の見通しが立たない」（住宅リフォーム）、「建材等の仕入れ価格が高騰している中、工事額への転嫁は難しい」（土木建築）や「原材料や消耗品の価格が上昇し、利益率が悪化している」（窯業）などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）

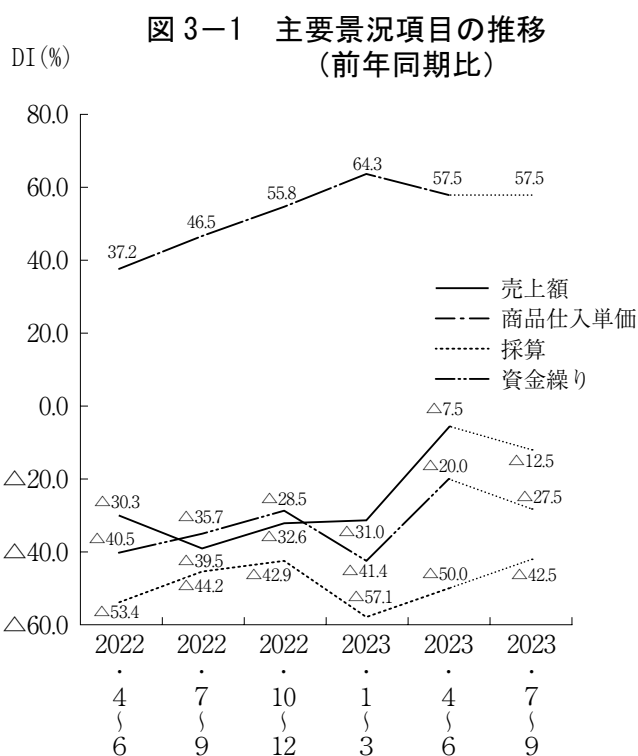


(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△7.5（前期△31.0）と前期より23.5ポイント改善、採算D Iでは今期△50.0（前期△57.1）で7.1ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△20.0（前期△41.4）で21.4ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期57.5（前期64.3）となり、6.8ポイント低下した。



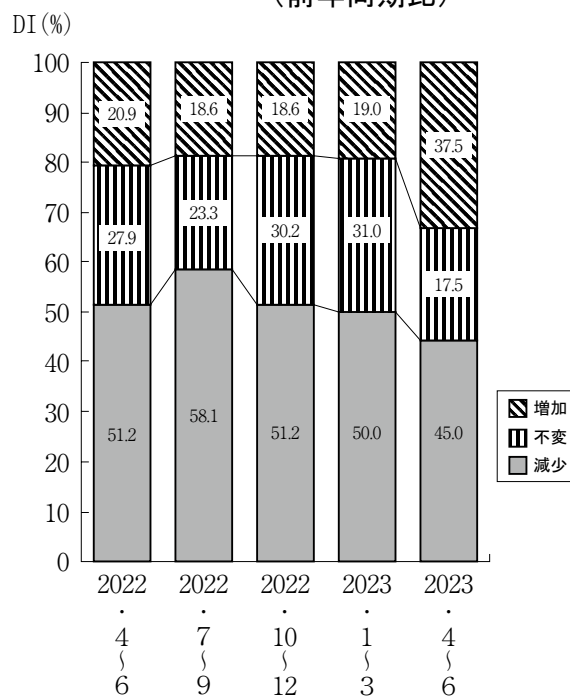
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の37.5%（前期19.0%）で18.5ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の45.0%（前期50.0%）で5.0ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△7.5（前期△31.0）と前期より23.5ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

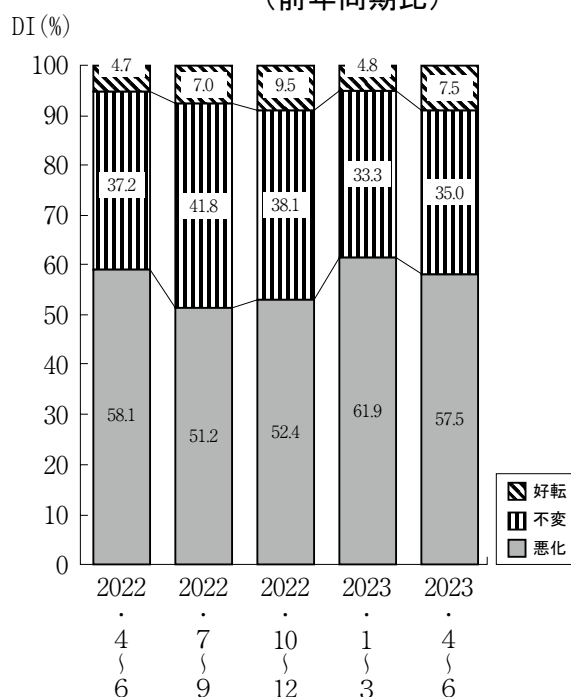


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の7.5%（前期4.8%）で2.7ポイント増加、「悪化」の回答は、今期は全体の57.5%（前期61.9%）で4.4ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△50.0（前期△57.1）で、前期より7.1ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
（前年同期比）



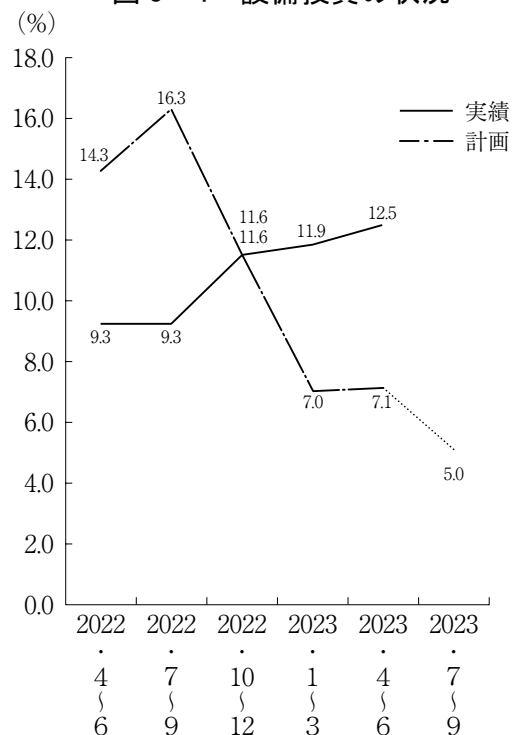
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の12.5%（前期11.9%）で前期比0.6ポイントの増加となった。

その設備内容は、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の5.0%で、その設備内容は、販売設備、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

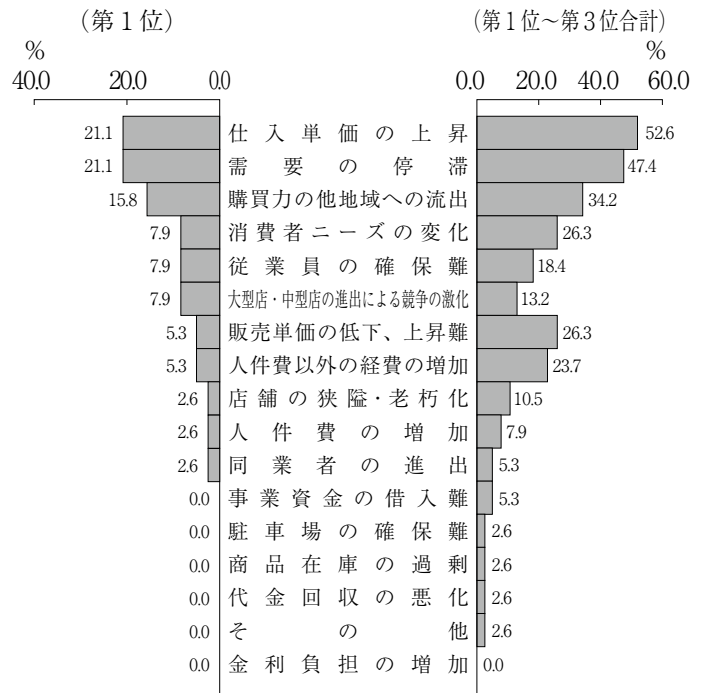


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「仕入単価の上昇」「需要の停滞」が同率で21.1%、次いで「購買力の他地域への流出」が15.8%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「仕入単価の上昇」が52.6%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が47.4%、「購買力の他地域への流出」が34.2%、「消費者ニーズの変化」「販売単価の低下、上昇難」が同率26.3%、「人件費以外の経費の増加」が23.7%、「従業員の確保難」が18.4%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が13.2%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



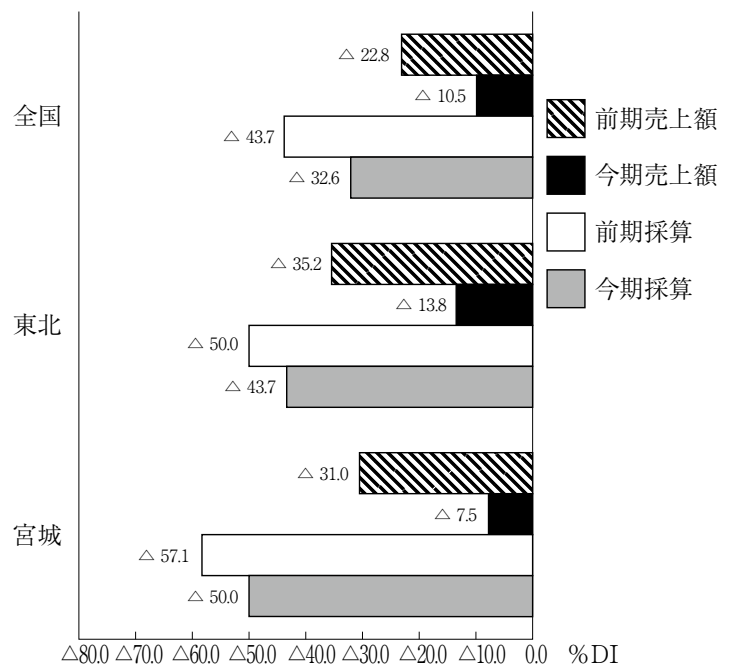
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上DIは全地域（全区分）で改善した。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIの比較でも全地域（全区分）で改善となり、その改善度は全国、宮城、東北の順であった。

本県回答事業所から「前期比で少しずつ回復傾向である」（飲食料品）、「業務並びに委託販売が増加」（青果）とする一方で、「資金不足を憂慮」「人手不足、従業員確保が困難」（食料品）、「仕入価格、光熱費等の上昇により業況は厳しい」（身の回り品）などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



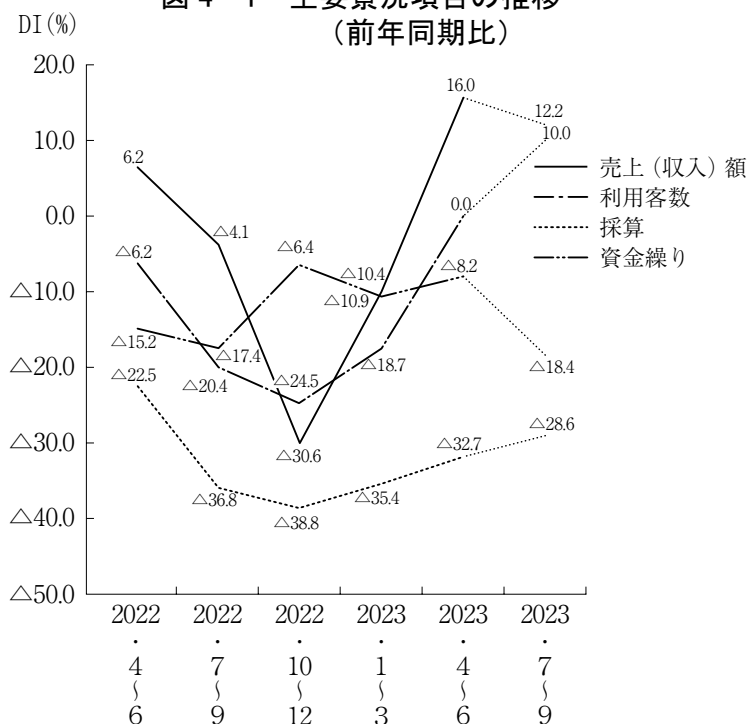
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期16.0（前期△10.4）で26.4ポイント改善、採算D Iも今期△32.7（前期△35.4）で2.7ポイント改善、資金繰りD Iでは、今期△8.2（前期△10.9）で2.7ポイント改善した。

利用客数D Iは、今期0.0（前期△18.7）で18.7ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



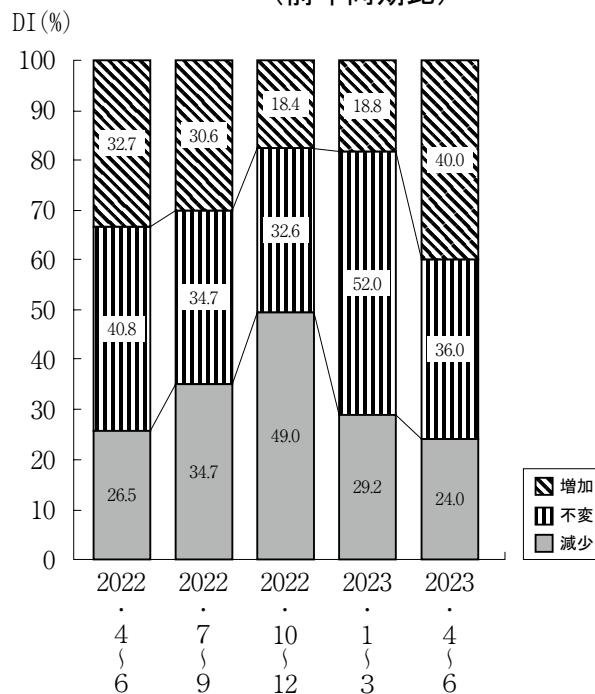
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の40.0%（前期18.8%）で前期より21.2ポイント増加、「減少」の回答は今期24.0%（前期29.2%）で5.2ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△16.0（前期△10.4）で、前期より26.4ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

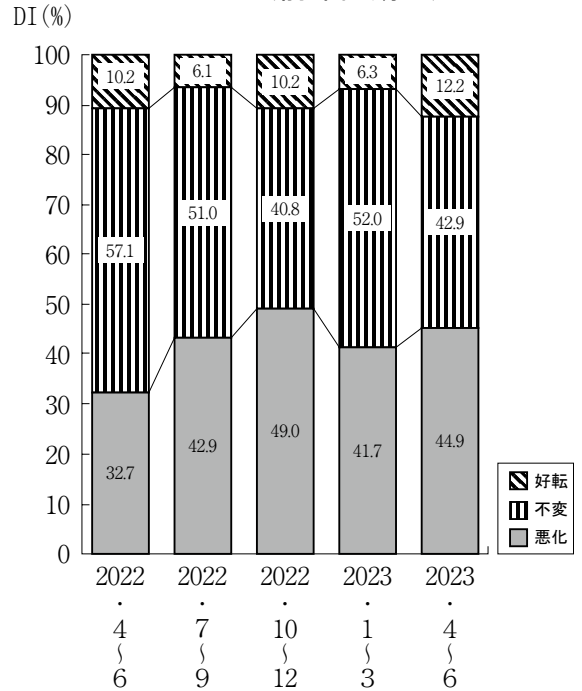


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の12.2%（前期6.3%）で5.9ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期44.9%（前期41.7%）と3.2ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△32.7（前期△35.4）で前期より2.7ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
（前年同期比）



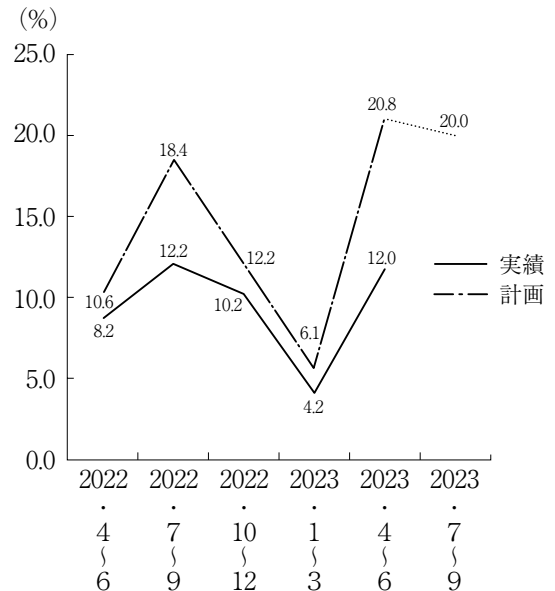
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の12.0%（前期4.2%）で、前期より7.8ポイント増加した。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の20.0%で、その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯設備、OA機器となっている。

図4-4 設備投資の状況

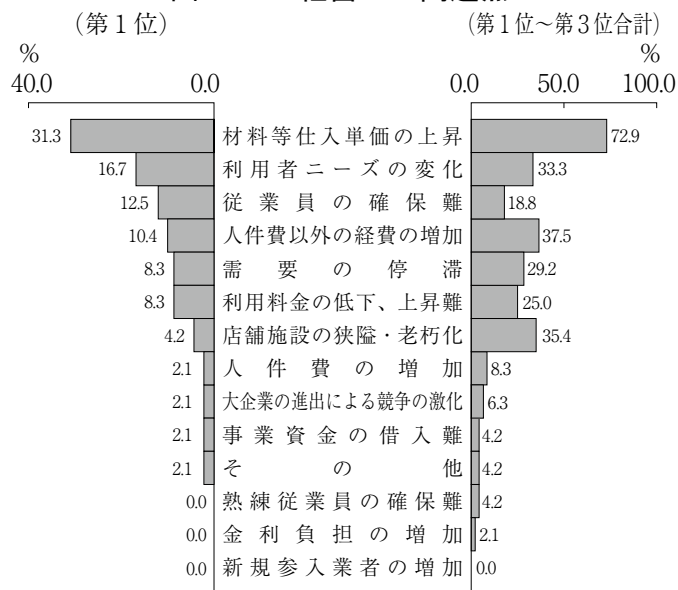


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料等仕入単価の上昇」が31.3%で、次いで「利用者ニーズの変化」が16.7%、「従業員の確保難」が12.5%であった。

重要度第1位から第3位合計では「材料等仕入単価の上昇」が72.9%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費以外の経費の増加」が37.5%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が35.4%、「利用者ニーズの変化」が33.3%、「需要の停滞」が29.2%、「利用料金の低下、上昇難」が25.0%、「従業員の確保難」が18.8%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上(収入)DIは全地域(全区分)で改善した。その改善度は東北、宮城、全国の順であった。

採算DIの比較でも全地域(全区分)で改善となり、その改善度は東北、全国、宮城の順であった。

本県回答事業所からは、「新型コロナの5類移行に伴い客足が戻ってきた」(飲食業)とする一方、「光熱費、仕入単価の上昇で利益確保が困難」(宿泊業、飲食業)、「物価の上昇が続いている中、付加価値の高いサービスを展開していきたい」(飲食業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

